

**課題名** 大学におけるエンゲージド・ラーニングに関する研究－研究・教育への主体的な関わりに焦点を当てて

**研究代表者名** 小嶋 秀樹 (教育情報アセスメント)

**研究組織等** 八 鋏 友広 (教育学)

工藤与志文 (教育心理学)

石井山竜平 (教育学)

後藤 武俊 (教育学)

井本 佳宏 (教育学)

熊谷 龍一 (教育情報アセスメント)

劉 靖 (先端教育研究実践センター)

清水 禎文 (宮城学院女子大学)

吉植 庄栄 (盛岡大学)

鈴木 学 (福島大学)

## 研究の目的と方法

大学におけるエンゲージド・ラーニングの展開に関する基礎的・理論的研究を行う。前年度までの研究実績を踏まえ、本年度は大学における研究および教育への研究者・学生による主体的なエンゲージメントに焦点を当てて調査・研究を行う。具体的にはつぎのような事業をとおして、大学におけるエンゲージド・ラーニングの可能性についての理解を深めることを目的とする。

1. 研究および教育におけるエンゲージド・ラーニングに関する文献研究等を踏まえ、国内外におけるエンゲージド・ラーニングに関する研究事例を参考に、大学におけるエンゲージド・ラーニングについての検討を深める。
2. 研究および教育におけるエンゲージド・ラーニングを展開している大学から研究者を招聘して情報交換を行うとともに、講演会（特別講演会および国際シンポジウム）を開催して学内外の研究者と知見を共有する。

## 研究経過

研究代表者および研究分担者によって構成される「大学教育研究会」の例会を8月1日に本研究科にて開催し、研究および教育におけるエンゲージド・ラーニングに関する研究動向・研究事例の共有・検討を行った。また、この研究会にて、秋冬にかけて開催する講演会等についての基調テーマ、講師候補などについて検討した。

この検討を踏まえ、研究活動への研究者の主体的なエンゲージメントをテーマとして、スウェーデン・ウプサラ大学の Baby and Child Lab を創始・運営してきた2名の研究者を招聘し、この2名が講師となる「特別講演会」を12月7日に実施した。講演会全体のタイトルは「研究へのエンゲージメント：個人の動機づけから学術的な貢献へ」とした。講演者および講演タイトルは、つぎのとおりである。

- Claes von Hofsten 博士（ウプサラ大学名誉教授）  
"My epistemological journey: From perception to infant cognition"
- Kerstin Rosander 博士（ウプサラ大学名誉教授）  
"Measuring the infants brain"

片平キャンパスの「知の館」での開催となったが、熱心な聴衆を得て、有意義な特別講演会となった。なお、この特別講演会では、前年度に倣って同時通訳を提供し、多様な参加者を広く受け入れるようにした。

また、教育活動への学生による主体的なエンゲージメントをテーマとした「教育研究国際シンポジウム」を12月21日に実施した。シンポジウム全体のタイトルは「主体的な『学び』へのエンゲージメント：図書館・ラーニング コモンズ・スタディー ツアーを『場』として」とした。国内外の研究教育機関から招聘した3名の講演者および講演タイトルは、つぎのとおりである。

- Prof. John Augeri (Sophia University & Ile de France Digital University)  
"Innovative physical learning spaces: Global trends, perspectives and challenges"
- Prof. Shoei Yoshiue (Morioka University)  
"Transformation of academic libraries through higher education reform in Japan" (講演は日本語で行われた)
- Prof. Timothy Phelan (Miyagi University)  
"Short-term study tours as transformational learning experiences? Problems and possibilities"

文科系総合研究棟大会議室にて開催した本国際シンポジウムは、多くの参加者を得て、有意義なものとなった。なお、この国際シンポジウムでは、AIを応用した音声認識・自動翻訳システムを活用して、講演者のトークを日本語または英語に翻訳して画面表示するようにした。

## 研究成果

大学の研究および教育におけるエンゲージド・ラーニングに関する研究動向および研究事例について検討をおこない、また実際に、研究および教育の現場でエンゲージド・ラーニングを実践してきた国内外の研究者との情報交換から、より詳細な研究テーマ・研究動

向を知り得ることができた。

また研究・教育におけるエンゲージド・ラーニングに関する 2 件の国際研究集会を本学にて主催することができた。ひとつはウプサラ大学にて発達心理学の研究所を創始・運営してきた研究者 2 名を講師として迎えての講演会であり、もうひとつは学習環境のデザインを研究・実践してきた研究者 3 名を講師として迎えての国際シンポジウムである。いずれも熱心な参加者を交えての活発なディスカッションが実現し、有意義であった。これら講演者および参加者とのつながりは、今後の本研究科におけるエンゲージド・ラーニングの深化・発展のための有益なリソースとなるだろう。

### 今後の課題

今年度の研究成果から、エンゲージド・ラーニングの研究を、研究活動へのエンゲージメント、すなわち若手研究者育成をゴールとした活動と、教育リソースへの学生によるエンゲージメント、すなわち主体的な学びをゴールとした活動からなる、2 本立ての研究事業として進めていくことが生産的であることが明らかになった。

今後は、これら 2 方向の研究事業を有機的に連携させ、本部局（学部・研究科）における学生指導のあり方、教員研究のあり方、それらの連携のあり方について、有益な知見を追究したい。本研究事業から得られた知見は、本学他部局あるいは他大学においても活用可能なモデルとして発信していくことが望まれる。